



第75回

# 全国植樹祭

埼玉  
2025

人・森・川 つなげ未来へ 彩の国

## 基本計画 <概要版>



埼玉県

**第1章 開催概要**

1. 開催意義	2
2. 開催理念	3
3. 埼玉県の特徴を活かした 大会の基本方針	4
4. 大会テーマ	5
5. シンボルマーク	5
6. 大会ポスター原画	5
7. 開催時期	6
8. 主催	6
9. 開催規模	6
10. 開催会場	6

**第2章 式典行事計画**

1. 基本的な考え方	8
2. 式典進行計画	8

**第3章 植樹行事計画**

1. 基本的な考え方	9
2. お手植え計画	9
3. お手播き計画	10
4. 代表者記念植樹計画	10
5. 招待者記念植樹計画	10

**第4章 会場整備計画**

1. 基本的な考え方	11
2. 施設配置計画	11
3. 主要施設計画	12
4. 案内・誘導計画	13
5. 飾花計画	13

**第5章 運営計画**

1. 基本的な考え方	14
2. 招待計画	14
3. 招待者行動計画	15
4. 受付計画	16
5. レセプション計画	16
6. 会場おもてなし計画	17
7. 医療・衛生計画	18
8. 消防・防災・警備計画	18

**第6章 宿泊・輸送計画**

1. 基本的な考え方	19
2. 宿泊計画	19
3. 輸送計画	19

**第7章 荒天時式典計画**

1. 基本的な考え方	20
2. 荒天時会場	20
3. 開催規模	20
4. 荒天時運営計画	20

**第8章 記念事業・関連事業計画**

1. 基本的な考え方	21
2. 記念事業	21
3. 関連事業	22

**第9章 広報・協賛計画**

1. 基本的な考え方	23
2. 広報計画	23
3. 協賛計画	23

## 1. 開催意義

埼玉県は、首都圏の中央に位置し、東北・関越・圏央道をはじめとした6つの高速・幹線道路や、東北・上越など6つの新幹線により主要都市と結ばれるなど、全国屈指の「交通の要衝」であり、この「地の利」と甲武信ヶ岳を源流とする荒川や利根川など豊かな河川を持つ「地の恵み」を生かした農林水産業をはじめとする様々な産業が営まれています。

本県には、県土の約3分の1を占める多彩で恵み豊かな森林があります。このうち民有林における人工林の割合は53パーセントで、その約8割が木材として利用可能な林齢を迎え、今後、この充実した森林資源を循環利用して適切に管理をしていくことが重要となっています。

また、里山や平地林など昔から人々に親しまれてきた身近なみどりが残されており、とりわけ三富地域（川越市ほか4市町）では、300年以上の歴史を誇る平地林を活用した伝統農法「武蔵野の落ち葉堆肥農法（世界農業遺産）」が今も受け継がれています。

本県では、農林水産業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、埼玉県農林水産業振興条例に規定する基本計画として「埼玉県農林水産業振興基本計画（令和3年3月策定）」がスタートしました。

本計画の下、SDGsの視点も踏まえ、強靱な県土の保全に資する森林整備を進めるため、強度間伐による針広混交林化や皆伐・再造林システムの確立・普及、里山・平地林の整備、県産木材利用の促進等様々な取組を、森林・林業関係者や関係団体、行政のみならず県民全体と共に展開していきます。

こうした中、令和7年（2025年）に、第75回全国植樹祭が本県で開催されます。本県での開催は、昭和34年（1959年）の第10回以来、66年ぶり、2回目となります。

第75回全国植樹祭を通じて、本県の緑化運動やSDGsへの貢献に繋がる取組などを全国に発信する絶好の機会とし、埼玉県ならではの特色ある有意義な大会にしていきます。

### 埼玉県における全国植樹祭の開催状況

昭和34年（1959年）4月5日、金尾山（寄居町）において、天皇皇后両陛下をお迎えし、「林種転換」を大会テーマに、第10回大会を開催しました。

この大会では、天皇皇后両陛下がヒノキの苗木をお手植えになるとともに、旧埼玉県林業試験場（寄居町）に移動し、天皇陛下はスギの種子を、皇后陛下はヒノキの種子をお手播きになりました。

また、当日は約7千人の参加者により、ヒノキの苗木、約1万5千本が3.8ヘクタールの敷地に植樹されました。



植樹会場全景（金尾山）



参加者による植樹風景



昭和天皇・香淳皇后両陛下によるお手植え（ヒノキ）

昭和34年（1959年）に開催された第10回大会の様様

## 2. 開催理念

- 適切な森林の整備と森林資源の循環利用を推進し、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮することで、森林・水・木材と私たちの暮らしや産業との結び付きを深め大切にしていきます。
- 豊かな川で繋がる山村と都市が、協力して森林・みどりを共有の財産として守り育て、元気な姿で未来の子供たちへ繋いでいきます。

埼玉県は、関東平野の内部に位置する内陸県であり、原生林を残す奥秩父の山々や武蔵野の面影を残す雑木林に代表される里山・平地林、首都圏の主要な水源である荒川や利根川をはじめとする豊富な清流・河川など豊かな自然に加え、産業、歴史、伝統文化など多彩な特性に恵まれ、住みよい生活環境を有しています。

本県の森林は、奥地に残されたシラビソ等の貴重な原生林から、山地・丘陵地のスギ・ヒノキ人工林、都市近郊に残されたコナラ・クヌギ等の平地林に至るまで、多彩な姿を見ることができます。

森林には動植物から微生物まで多様な生物が生息し、それらが健全に維持されることで木材の供給のほか、水源の涵養や地球温暖化の防止、国土保全、保健・レクリエーションなど様々な多面的機能を発揮し、私たちの安全・安心な生活に欠くことのできない恩恵をもたらしてくれます。

近年、記録的な大雨等の増加などの気候危機は、全国的に流木を含む土砂災害を発生させ大きな被害をもたらしています。このため、森林の土砂災害防止機能を高め防災・減災対策を進める上でも、間伐や再造林などの適切な森林整備を積極的に行うことが求められています。

また、深刻化しつつある地球温暖化は、私たちの生存基盤に関わる最も重要な環境問題で世界的に対策に取り組むことが求められ、2020年（令和2年）10月に、我が国は2050年（令和32年）までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」、 「脱炭素社会」の実現を目指すことを宣言しました。

この実現には、「伐って・使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を推進し、森林の若返りと木材の利用拡大を図ることで、森林による二酸化炭素の吸収・固定機能と木材利用による炭素の貯蔵効果を高めていく必要があります。

こうした状況を踏まえ、私たちは豊かな森林・みどりを利用しながら守り育て、次の世代へ引き継いでいくため、開催理念の下、全国植樹祭を開催します。



金尾山(寄居町)



里山・平地林(狭山市)



人工林(飯能市)



駅自由通路(幸手市)



森づくり活動(越生町)

### 3. 埼玉県の特徴を活かした大会の基本方針

- (1) 全国植樹祭の開催を契機として、豊かなみどりを県民全体で次の世代に引き継ぐという機運を高めて、緑化運動と森林資源の循環利用を推進し、SDGsにも繋がる機会となる大会にします。
- (2) 埼玉県の豊かな自然や歴史・文化等の魅力を全国に向けて発信します。
- (3) 県民全体で「おもてなしの心」でお迎えし、全国植樹祭に参加される方の心に残るような大会となるよう努めます。



埼玉県マスコット  
「コバトン」「さいたまっち」

## 4. 大会テーマ

全国から応募があった2,000点の作品の中から、選定しました。

### 人・森・川 つなげ未来へ 彩の国

つかもと みゆき

作者：塚本 美幸さん(埼玉県川越市)

#### [選定理由]

山村や都市など県に暮らす「人」が、植樹によって「森」を育み、森林から流れ出る「川」によって人々の生活が潤される営みを「未来」の子供たちにつないでいこうという強い思いが込められており、開催理念が見事に表現された作品となっています。

## 5. シンボルマーク

全国から応募があった664点の作品の中から、選定しました。



いしづき あきひこ

作者：石附 秋彦さん(東京都)

#### [選定理由]

埼玉県のマスコット「コバトン」と「さいたまっち」が、大きく力強く配置され、大会テーマにある「森」と「川」が明確にバランス良く描かれています。虹は、彩の国の彩りを表すとともに、未来へつながる架け橋をイメージさせます。大会テーマが盛り込まれた、大会にふさわしい作品となっています。

## 6. 大会ポスター原画

埼玉県内の小中学校及び高等学校などの児童・生徒から応募があった228点の作品の中から、選定しました。



タイトル：「みどりをだいじにしよう」

いばら れお

作者：井原 礼央さん(西武学園文理小学校2年生)

#### [選定理由]

地球から芽吹く若葉と大きく成長した樹木は、植樹の大切さを力強く訴えかけます。その樹木が未来を担う子供たちと手をつないでいる姿が、大会テーマ「人・森・川 つなげ未来へ 彩の国」のイメージを印象深く表現している作品です。

## 7. 開催時期

令和7年（2025年）春季

## 8. 主催

公益社団法人国土緑化推進機構

埼玉県

## 9. 開催規模

県内外から参加する招待者、実施本部員・協力員等を含め、5,000人程度の規模で開催します。ただし、荒天時は規模を縮小します。

区 分	参加予定者数	内 訳
中央特別招待者	30 人	国関係者、県関係者 等
県外招待者	1,080 人	国関係者、被表彰者、他県招待者 等
県内招待者	2,390 人	県関係者、市町村関係者、学校関係者、森林・林業・緑化関係団体、森林ボランティア、公募招待者、県実行委員会 等
実施本部員・協力員等	1,500 人	実施本部員、協力員、出演者 等
合 計	5,000 人	

※ 新型コロナウイルス等の感染症拡大など、新たに見直すべき事象が発生した場合には、開催規模を再検討します。

## 10. 開催会場

### （1）式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き行事を実施します。また、各種の展示PR等を行うおもてなし広場を設置し、招待者を歓迎します。

#### ◆秩父ミュージックパーク（秩父市、小鹿野町）



秩父ミュージックパークは、秩父市と小鹿野町にまたがる豊かな自然環境に恵まれた長尾根丘陵に、音楽堂・野外ステージ、ミュージックの泉、大庭園などの芸術・文化施設、多彩なスポーツ施設があり、四季折々の自然とともに楽しめる公園です。

(2) 植樹会場

県内外の参加者が記念植樹を行う植樹会場を秩父ミュージックパーク内に設置します。

(3) サテライト会場

より多くの県民と開催理念を共有し、全国植樹祭の開催効果を高めるため、サテライト会場を県内に設置します。サテライト会場では式典の模様を中継するほか、各種のPR展示を行います。

会場名	所在地
所沢駅西口開発計画（商業施設）（令和6年秋開業予定）	所沢市
深谷テラスパーク	深谷市
モラージュ菫蒲	久喜市



所沢駅西口開発計画(商業施設)

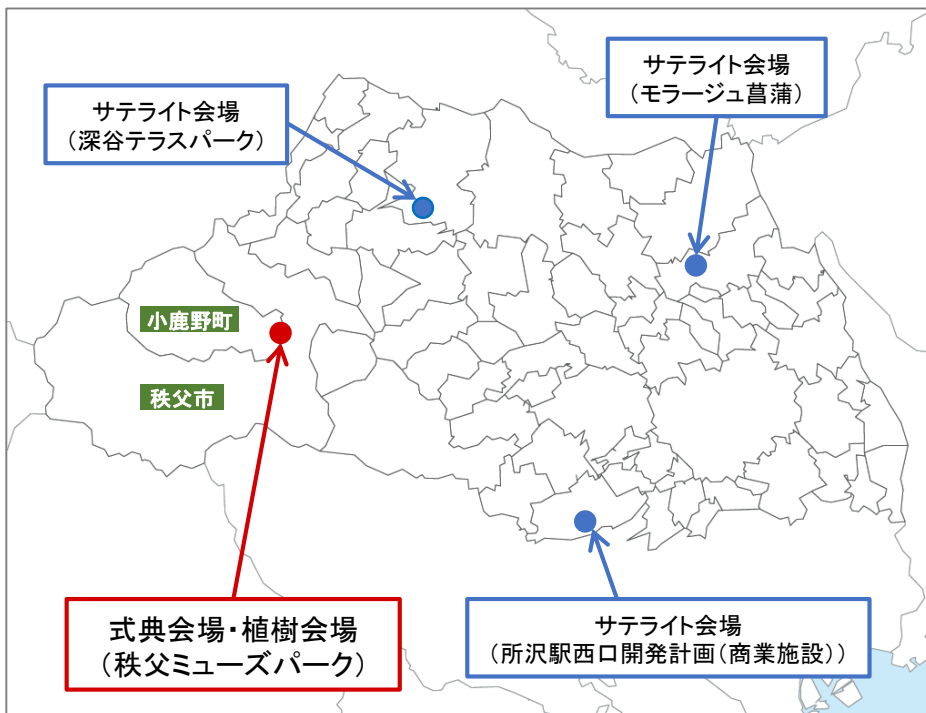


深谷テラスパーク



モラージュ菫蒲

■ 開催会場位置図





## 1. 基本的な考え方

式典行事は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 参加者が開催理念を共有するとともに、心に残る内容の植樹祭とします。
- (2) 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- (3) 県内外、子供や高齢者、障がい者等、できる限り多くの方々や、大会に賛同いただいた企業・団体等が参加できるよう配慮します。

## 2. 式典進行計画

時間	区分	項目	進行内容
	招待者入場		来場者の歓迎、プログラム案内等 インフォメーション
60分 程度	プロローグ	プロローグ案内	
		プロローグアトラクション	【気づき】 人・森・川 つながる彩の国
		記念式典のご案内	
60分 程度	記念式典	天皇皇后両陛下 御着席	
		開会のことば	国土緑化推進機構副理事長
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者あいさつ	大会会長（衆議院議長）、埼玉県知事
		天皇陛下のおことば	
		表彰	緑化功労者などへの感謝の表彰
		苗木の贈呈	緑の少年団から、農林水産大臣と環境大臣に 苗木を贈呈
		天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き	
		代表者記念植樹	県内外特別招待者による植樹
		大会テーマの表現	【約束】 ここから未来へ つなげる彩の国
		大会宣言	国土緑化推進機構理事長
		リレーセレモニー	次期開催県への引継ぎ
		閉会のことば	埼玉県議会議長
天皇皇后両陛下 御退席			
30分 程度	エピローグ	エピローグアトラクション	【ハーモニー】 誓いと行動 奏でる彩の国

## 1. 基本的な考え方

植樹行事は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 将来目指すべき森林の姿をイメージした上で、本県の気候風土や立地条件に適した樹種を選定します。
- (2) 植樹用の苗木は、県内で採取した種子等により育成したものをを使用することを基本とします。また、苗木のスクールステイ等により、苗木づくりの段階から多くの方々に参加していただきます。
- (3) 県民との協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、子供から高齢者、障がい者等を含む、できる限り多くの皆様に参加していただけるよう配慮します。

## 2. お手植え計画

### ■ 天皇陛下お手植え樹種（3種）

#### ケヤキ

- ・ケヤキは県内に自生し屋敷林や学校、社寺などに植えられており、県の木として県民に広く親しまれています。
- ・大木に成長し、遠くからでもわかる美しい扇形の樹形になるのが特徴です。
- ・市や町の木としても多く指定されています。



#### スギ（少花粉）

- ・スギは県内の人工林の6割以上を占め、次世代においても本県の林業を担う主要な樹種です。
- ・昭和34年に開催された第10回全国植樹祭で昭和天皇がお手播きされた樹種です。
- ・少花粉スギを使用したコンテナ苗\*の生産を開始し、花粉症対策と造林コストの低減に取り組んでいます。



\*培土と根が一体となった「根鉢」を形成した苗木

#### トチノキ

- ・トチノキは県西部の山地に広く自生し、都市部では街路樹として利用されています。
- ・実や葉は古くから本県の食文化に深い関わりがあり、秩父地域では栃の実を使った「栃もち」や餅米などを栃の葉で包んで煮る「つとっこ」などの伝統食が残されています。



### ■ 皇后陛下お手植え樹種（3種）

#### ヒノキ（少花粉）

- ・ヒノキはスギに次いで県内の人工林の多くを占める樹種で、スギと並び次世代においても県の林業を担う主要な樹種です。
- ・昭和34年に開催された第10回全国植樹祭で昭和天皇香淳皇后両陛下がお手植えされ、香淳皇后がお手播きされた樹種です。
- ・県内では少花粉の苗木を植栽し、花粉症対策に取り組んでいます。



#### コナラ

- ・コナラは武蔵野の面影を残す平地林や里山を構成する代表的な樹種です。
- ・三富地域の平地林では、江戸時代から落ち葉を使った循環型農業が営まれ、「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は世界農業遺産にも認定されました。
- ・全国的に発生しているナラ枯れは高齢木や大径木に多いことから、苗木を植えてコナラ林の若返りを図ることが有効な対策であることを発信していきます。



#### ヤマザクラ

- ・サクラは日本人に深く愛されている樹種で、県内においても地域の人々によってさまざまな種類の樹木が大切に守り育てられています。
- ・選定したヤマザクラは、野生サクラの代表的な樹種で、式典会場のある秩父地域などの山地や里山に自生しており、県民にも広く親しまれています。



### 3. お手播き計画

#### ■ 天皇陛下お手播き樹種（2種）

##### ヒノキ（少花粉）

- ・ヒノキはスギに次いで県内の人工林の多くを占める樹種で、スギと並び次世代においても本県の林業を担う主要な樹種です。
- ・昭和34年に開催された第10回全国植樹祭で昭和天皇香淳皇后両陛下がお手植えされ、香淳皇后がお手播きされた樹種です。
- ・県内では少花粉の苗木を植栽し、花粉症対策に取り組んでいます。



##### アカシデ

- ・アカシデはコナラと並び本県の里山・平地林を構成する主要な樹種で、盆栽や庭木としても利用されています。
- ・若葉は赤色で目立ち、花（果）穂の垂れ下がる様子がしめ縄に飾る四手（しで）に似ていることから、この名が付けられたと言われています。



#### ■ 皇后陛下お手播き樹種（2種）

##### スギ（少花粉）

- ・スギは県内の人工林の6割以上を占め、次世代においても本県の林業を担う主要な樹種です。
- ・昭和34年に開催された第10回全国植樹祭で昭和天皇がお手播きされた樹種です。
- ・少花粉スギを使用したコンテナ苗\*の生産を開始し、花粉症対策と造林コストの低減に取り組んでいます。



\*培土と根が一体となった「根鉢」を形成した苗木

##### イタヤカエデ

- ・イタヤカエデは県内の山地に自生し大木になるカエデの樹種です。
- ・本県は全国的にもカエデの種類が豊富であることから、カエデの樹液を利用した菓子作りや清涼飲料の開発など、新たな森林資源の活用に取り組んでいます。



### 4. 代表者記念植樹計画

- (1) 特別招待者の代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- (2) 場所は、特別招待者席前で行うものとします。

### 5. 招待者記念植樹計画

- (1) 招待者記念植樹は、県内外からの招待者による記念植樹とします。
- (2) 埼玉県の気候風土に適した樹木を植樹します。

#### ■ 招待者記念植樹樹種

会場名	主な樹種
秩父ミュージアムパーク	クスノキ、スダジイ、タブノキ、アカシデ、アラカシ、イヌシデ、エノキ、クサボケ、クヌギ、コナラ、シラカシ、ハンノキ、ヒサカキ、ヤマザクラ、アオハダ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、エゴノキ、オニグルミ、ガマズミ、キハダ、クリ、ケヤキ、ヒメコウゾ、サンショウ、タラノキ、ホオノキ、ミズキ、ヤマグワ、アオダモ、イタヤカエデ、エドヒガン、オオバアサガラ、カツラ、クロモジ、シラカンバ、トチノキ、メグスリノキ、ヤマボウシ、ヤマツツジ、ウメ、イチョウ、スギ、ヒノキ、カヤ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ムクノキ 以上 48種

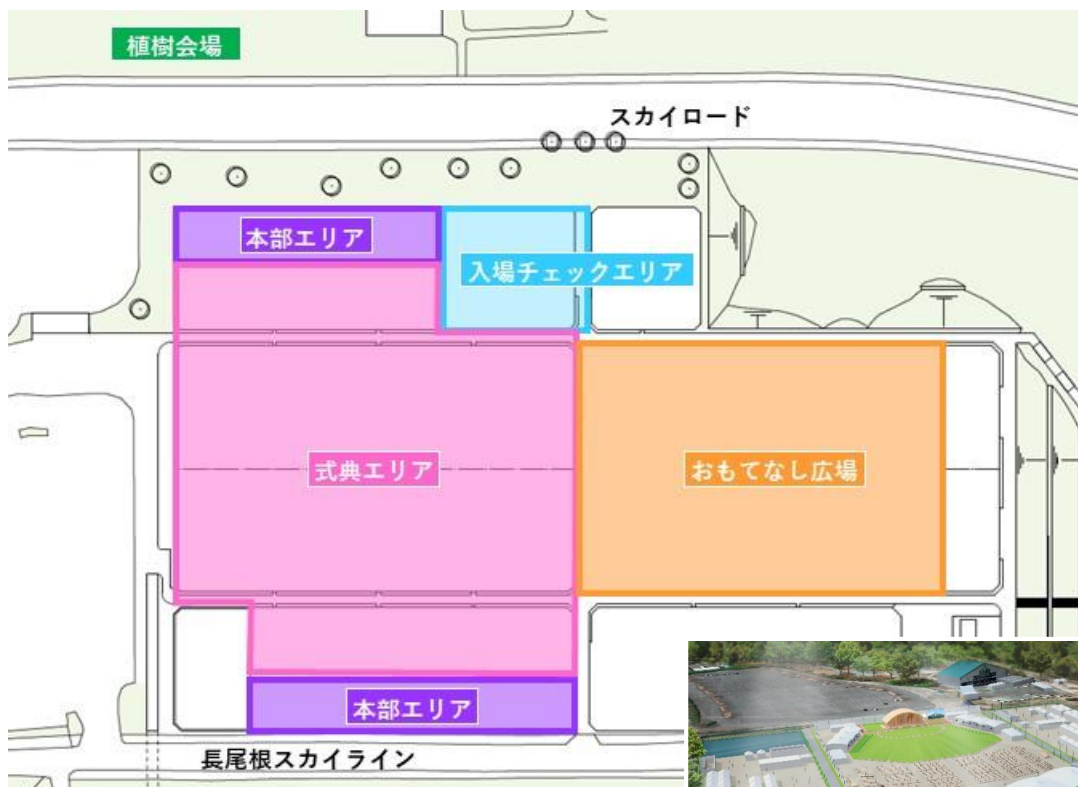
## 1. 基本的な考え方

会場整備計画は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 会場の整備は、自然環境にできる限り負荷を与えないように配慮するとともに、経費削減を図ります。
- (2) 会場に設置する構造物等には、県産木材をできる限り使用します。
- (3) 会場レイアウトや建築物等は、周辺の景観との調和を図ることはもとより、安全性や機能性を考慮し、全ての招待者が安心して快適に参加できるよう配慮します。
- (4) おもてなし広場を設置し、招待者が安心して快適に過ごせるよう、総合案内所や湯茶接待所、救護所を配置するとともに、森林づくり活動や観光・県産品等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内、地場産物等を取り揃えた物産販売ブース等を関係団体の協力により運営します。

## 2. 施設配置計画

会場は、式典エリア、本部エリア、おもてなし広場、入場チェックエリア等にゾーン分けします。



【式典会場イメージ図】

### 3. 主要施設計画

#### (1) お野立所<sup>のだてしょ</sup>

- ・木組みで構成された屋根は、秩父地域の連なる山々を表現するなど、会場周辺の景観と調和したデザインとなっています。
- ・屋根は、羽ばたく鳥も表現しており、人・森・川をつないだ埼玉県が未来へ飛翔する思いが込められています。
- ・県産木材を使用して建築します。
- ・経費の節減に努めるとともに、大会終了後は部材として再利用することを考慮します。



お野立所のイメージ

#### (2) 会場内工作物

お手播き箱やベンチ、プランターカバー等の木製品や三旗掲揚台などには、原則として県産木材を使用します。

また、安全性・経済性に配慮し、周囲の景観と調和を図ります。



お手播き箱(第70回全国植樹祭愛知大会)



木製ベンチ(第72回全国植樹祭滋賀大会)

## 4. 案内・誘導計画

- (1) 招待者が安全かつ円滑に式典行事や植樹行事等に参加することができ、各施設への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- (2) 案内サインは、ユニバーサルデザインに留意し、招待者が見やすい色彩、大きさにするとともに、視認性の良い位置、高さに設置します。  
また、ピクトサイン（絵文字）等を使用します。
- (3) 案内サインには、県産木材のほか、再利用可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。

## 5. 飾花計画

会場周辺の飾花は、県産の花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、招待者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。



飾花の様子(第72回全国植樹祭滋賀大会)

## 1. 基本的な考え方

運営計画は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 全国からの招待者をおもてなしの心でお迎えし、開催の意義や理念を広く発信する場とします。
- (2) 運営は、市町村、NPO及び関係団体など、幅広い協力が不可欠であることから、各団体の意向を踏まえ、連携を図りながら進めます。

## 2. 招待計画

招待者区分		内 容	人 数
①中央特別招待者		国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、埼玉県知事、埼玉県議会議員、次期開催県知事等	30 人
②特別招待者	県外特別招待者	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、都道府県知事及び議会議員等	320 人
	県内特別招待者	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員等	460 人
	小計		780 人
③一般招待者	県外一般招待者	各都道府県森林・林業関係者等	760 人
	県内一般招待者	県内の森林・林業関係者及び県内公募による県民等	1,930 人
	小計		2,690 人
招待者小計 (①+②+③)			3,500 人
④実施本部員・協力員等		実施本部員、協力員、出演者 等	1,500 人
合計 (①+②+③+④)			5,000 人

### 3. 招待者行動計画

時間	全体進行	① 中央 特別招待者 30人	② 特別招待者		③ 一般招待者	
			県外	県内	県外	県内
			320人	460人	760人	1,930人
			指定宿泊施設	指定集合地	指定宿泊施設	指定集合地
			↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
			到着			
		指定宿泊施設	記念植樹			
			↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
			入場チェック			
			↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
			昼食・おもてなし広場自由見学等			
	おもてなし広場	到着・昼食	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
	招待者完全着席	招待者完全着席				
13:00	プロローグ	プロローグ				
14:00	式典	代表者植樹	式典			
15:00	エピローグ	会場出発	エピローグ			
15:30	おもてなし広場		↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
			順次会場出発			
		駅	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
			駅	指定解散地	駅	指定解散地

※ 式典行事の開始時間や招待者の行動計画は変更となる場合があります。



## 4. 受付計画

運営計画は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 宿泊する招待者は、大会前日、指定宿泊施設にて受付を行います。
- (2) 宿泊施設には招待者専用の受付を設置し、円滑なチェックインができるようにします。
- (3) 全国植樹祭当日の受付は、指定宿泊施設や指定集合地で、移動用バスに乗車する前に  
行います。

## 5. レセプション計画

天皇皇后両陛下の御来県を歓迎するとともに、招待者の来訪を歓迎し、懇親を深める場とします。

### レセプション概要

【主 催】	埼玉県
【開 催 日】	全国植樹祭開催の前日
【招待予定者】	<input type="checkbox"/> 中央特別招待者 国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、次期開催県知事、 埼玉県知事、埼玉県議会議長、開催地市長 等 <input type="checkbox"/> 県外特別招待者 緑化功労者、代表表彰者、県選出国會議員 等 <input type="checkbox"/> 県内特別招待者 緑化功労者、県議会議員、市町村長 等

## 6. 会場おもてなし計画

- (1) おもてなし広場を設置し、招待者が安心して快適に過ごせるよう、総合案内所や湯茶接待所、救護所を配置します。
- (2) 本県の森林づくり活動の取組や、観光・県産品等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内、地場産品等を取り揃えた物産販売ブースなどを関係団体の協力により運営します。
- (3) おもてなしステージでは、本県を代表する郷土芸能等を紹介します。
- (4) おもてなし広場は、出展者等との協力により、ごみの減量化や環境に配慮した運営に努めます。

区分	場所	内容
おもてなし広場	総合案内所	招待者に対する各種案内、情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理
	おもてなしステージ	歌や踊り、郷土芸能等の披露
	湯茶接待所	参加者に湯茶、ミネラルウォーター等の提供
	展示コーナー	埼玉県内の森林・林業、観光等の紹介
	販売コーナー	埼玉県内の特産品や飲食物の販売
	休憩コーナー	休憩用のテントの設置
	臨時郵便局	記念切手の販売、郵便や宅配サービス
	救護所	参加者の体調管理・救護



おもてなし広場の様子(第72回全国植樹祭滋賀大会)

## 7. 医療・衛生計画

### (1) 救護所の設置

- ・式典会場に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。
- ・救護所には、応急処置セットや休憩用ベッド等を備えます。
- ・消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受入体制を整備します。

### (2) 熱中症対策

- ・場内放送で湯茶接待所の案内や、こまめな水分補給を呼びかけ、熱中症に対する注意を促します。
- ・救護所には、経口補水液を備えるなど、適切な処置を行える体制を整備します。

### (3) 衛生対策

- ・保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- ・食の安全を期するため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などへの指導を徹底します。
- ・飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、各会場及びその周辺の環境美化に努めます。

### (4) 新型コロナウイルス等感染症対策

ガイドラインを策定し、参加者の体調管理の確認徹底など、感染リスクの低減を図るとともに、体調不良者発生時に的確な対応を実施します。

## 8. 消防・防災・警備計画

### (1) 基本的な考え方

- ・招待者の安全を確保し、安心して参加できるようにします。
- ・消防、警察署、その他関係機関との協力体制を築き、密接な連携を図ります。

### (2) 消防・防災

- ・実施本部が中心となり、異常の早期発見、通報に努めます。

### (3) 避難計画

避難計画を策定の上、実施本部員等に周知徹底を図り、招待者全員が安全に避難できる体制を整備します。

### (4) 警備

- ・会場内での事件・事故を防止し、全国植樹祭の円滑な運営を図るため、警察等の関係機関と協力して警備を実施します。

## 1. 基本的な考え方

- (1) 式典前日、宿泊招待者（主に県外招待者）は、第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会が指定する県内の施設に宿泊することを原則とします。
- (2) 式典当日は、原則、宿泊施設や県内各地に指定する集合地から第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会が手配する計画輸送バス等により式典会場などに移動することとします。
- (3) 宿泊施設等の収容人数、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制、式典終了後の視察ルートを一元的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整備します。

## 2. 宿泊計画

- (1) 植樹行事及び式典行事のスケジュール、道路状況やアクセスなどを総合的に勘案し、適切な宿泊地域や宿泊施設を選定します。
- (2) 安全に計画輸送バスの乗降ができる場所（敷地内又は近隣）を確保できる宿泊施設を選定します。

## 3. 輸送計画

- (1) 招待者はバスで移動することを原則とし、招待者区分ごとに輸送計画を作成します。
- (2) バス事業者や関係機関と協議・検討の上、招待者の安全で円滑な輸送を確保した運行ルートを決めます。
- (3) 式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、できるだけ最短の移動時間となるルートを設定します。

## 1. 基本的な考え方

- (1) 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、式典会場での式典が困難であると判断した場合は、荒天時会場で式典を行います。
- (2) 開催日の1週間前から随時情報収集に努め、式典会場での実施の可否を判断します。
- (3) 荒天時会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

## 2. 荒天時会場

秩父宮記念市民会館（秩父市熊木町8-15）



【秩父宮記念市民会館】



【大ホール フォレスト】

## 3. 開催規模

県内外から参加する招待者、協力員、スタッフ等を合わせて1,000人程度の規模で開催します。

※ 新型コロナウイルス等の感染症拡大など、新たに見直すべき事象が発生した場合には、開催規模を再検討します。

## 4. 荒天時運営計画

### (1) 式典計画

- ・式典の構成を「記念式典」のみとし、大会テーマの表現や代表者植樹を除いた構成とします。
- ・式典の時間は、50分程度とします。

### (2) 判定会議

- ・大会開催の可否について判断する会議（以下「判定会議」という。）を、必要に応じて設置します。
- ・判定会議のメンバーや召集方法、大会の中止・変更の判断基準と対応について、ガイドラインを策定します。

## 1. 基本的な考え方

第75回全国植樹祭の開催理念を広めるとともに、森林づくりや木材利用の必要性について、県民の皆様幅広く啓発するため、記念・関連事業を実施します。

## 2. 記念事業

### 第75回全国植樹祭1年前記念イベント

全国植樹祭の開催1年前の時期に、大会の周知や開催機運の醸成を図るため、記念イベントを開催します。

【開催日】令和6年6月15日（土）

【開催地】イオンレイクタウン（越谷市）

【内容】式典、植樹、記念ステージイベント、特産物の展示・販売、森林づくり活動のPR

### カウントダウンイベント

第75回全国植樹祭開催機運を盛り上げるため、開催200日前などの節目の日（令和6年度中）にカウントダウンイベントを開催します。

区分	時期	場所
200日前	令和6年秋頃	埼玉県庁（さいたま市）
100日前	令和7年冬頃	秩父ミュージックパーク（秩父市・小鹿野町）

### 苗木のスクールステイ

緑の大切さと森林づくりへの関心を高めるため、全国植樹祭やイベントで植樹する苗木を、延べ165団体の保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校等の園児、児童、生徒及び緑の少年団の協力により大切に育成しています。

### 「木製地球儀」巡回展示

第75回全国植樹祭の開催機運を醸成するため、大会のシンボルである「木製地球儀」を県内各地で巡回展示します。

### 記録誌の発行、記録映像の作成

第75回全国植樹祭の式典行事、植樹行事をはじめ、各種記念事業などの取組を、記録誌や記録映像等にまとめ、関係機関等に配布します。

### 記念碑の建立

第75回全国植樹祭の開催を記念し、令和7年秋季以降に記念碑を建立します。

### 3. 関連事業

#### 第53回全国林業後継者大会

全国の森林・林業関係者が一堂に会し、林業の振興と森づくりの重要性について意見を交わし、林業を担う人たちが希望や誇りをもって働き続けられる林業の魅力を全国に発信します。

<時 期> 令和7年(2025年)春季(第75回全国植樹祭の前日)

<場 所> 飯能市内

<内 容> 森林・林業関係者の活動発表、パネルディスカッション等

#### こどもの森づくりフォーラム2023 in SAITAMA

全国植樹祭の開催を契機に、保育所・幼稚園等における幼児期からみどりに親しむための取組の普及、促進等を図るため、林野庁や公益社団法人国土緑化推進機構等と協働して、保育・幼児教育関係者等を対象にフォーラムを実施しました。

<時 期> 令和5年7月9日(日)

<場 所> 秩父市「秩父宮記念市民会館」

<内 容> 基調講演、先催事例発表、ディスカッション等



パネルディスカッションの様子



森林・林業に関するパネル展示の様子

## 1. 基本的な考え方

- (1) 広報宣伝や協賛募集の活動を通じて、大会の開催意義、開催理念及び内容、大会に向けた様々な取組等について広くPRするなど、開催への機運を高めていきます。
- (2) 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。

## 2. 広報計画

### (1) 「どこでも植樹祭」の実施

県内で実施される各種イベントに合わせ、「どこでも植樹祭」と銘打ち、全国植樹祭のPR活動を実施します。ブース展示、PRグッズの配布、苗木の配布など、会場の規模等に応じてPRを行います。

### (2) インターネットの活用

第75回全国植樹祭の公式ホームページを開設し、様々な取組や関連イベント等に関する情報を積極的に発信します。

### (3) 公共広報等の活用

県及び各市町村の広報や広報番組等の公共広報媒体を有効活用し、広く県民に向けて、きめ細かな情報提供とPR活動を実施します。

### (4) マスメディアの活用

テレビ、ラジオ、新聞等、各報道機関との連携を深めるとともに、第75回全国植樹祭や関連事業などに関する情報が広く発信されるよう、情報提供します。

### (5) 企業・団体等との連携

シンボルマークやロゴマークの使用を広く呼びかけるなど、企業・団体等の支援や協力による広報活動を通じ、大会開催の周知を図ります。

また、企業・団体等と連携したイベントを通じて、来場者に向けてPR活動を実施します。

### (6) 全国植樹祭情報誌等の発行

「第75回全国植樹祭だより」を発行し、大会に向けた取組状況や県民参加の森林づくり活動等に関する情報を発信します。

### (7) PRグッズの作成・配布

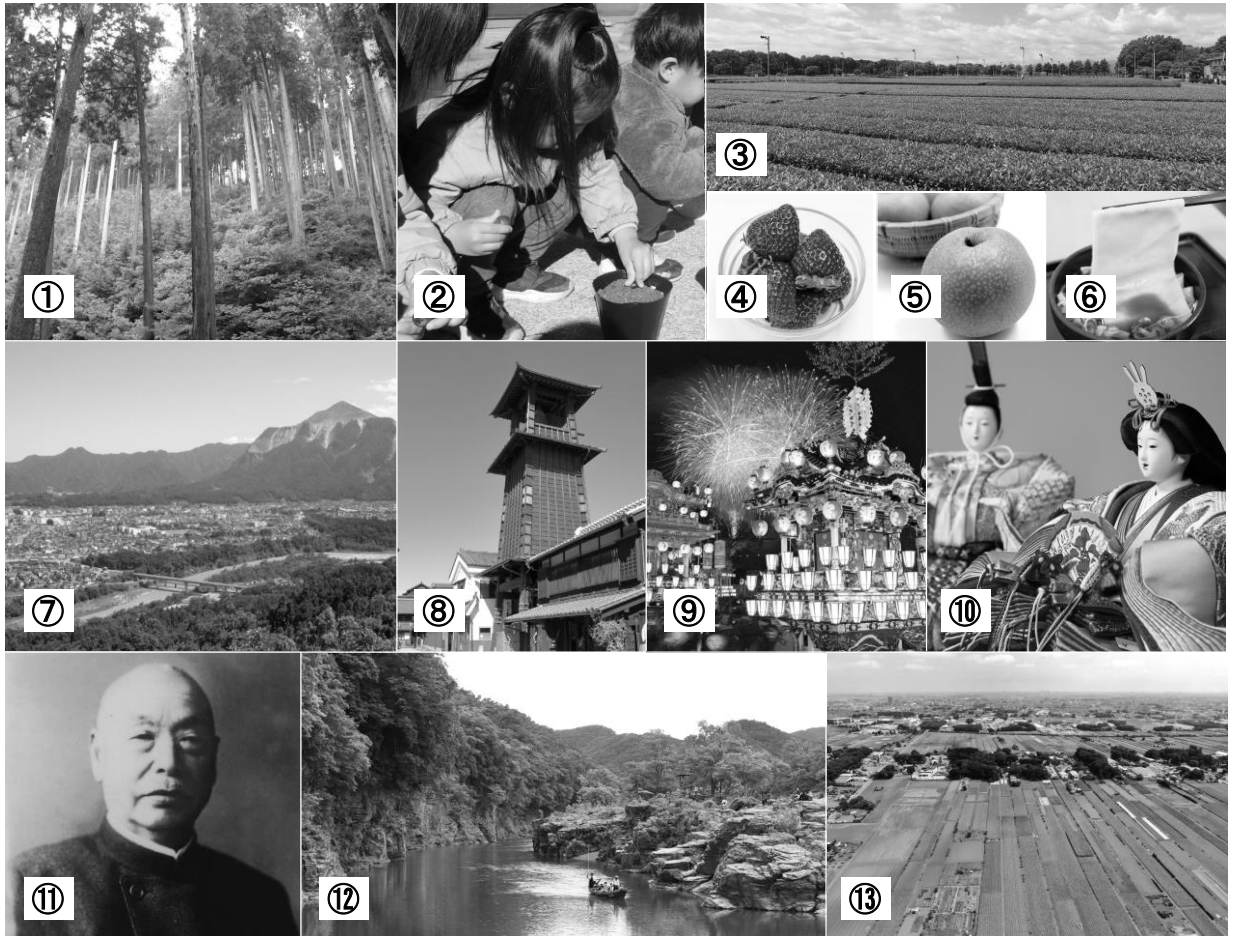
シンボルマーク等を用いた各種PRグッズを作成し、各種イベントなどで配布することで全国植樹祭の周知と機運の醸成を図ります。

## 3. 協賛計画

第75回全国植樹祭に向けて、この趣旨に賛同する団体や企業等と協働・連携した開催とするため、県内外から幅広い協力を得る仕組みとして、協賛制度を創設します。

協賛企業等には、第75回全国植樹祭会場や公式ホームページ、記録誌等で協賛者名を掲載するなど、様々な特典を提供します。





### 【表紙写真】

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ①西川林業地の人工林           | ⑧小江戸川越のシンボル 時の鐘  |
| ②苗木のスクールステイ          | ⑨ユネスコ無形文化遺産 秩父夜祭 |
| ③狭山茶の茶畑              | ⑩岩槻のひな人形         |
| ④埼玉ブランドのいちご「あまりん」    | ⑪日本の公園の父 本多静六博士  |
| ⑤埼玉ブランドの梨「彩玉（さいぎょく）」 | ⑫国の名勝・天然記念物 長瀨渓谷 |
| ⑥こうのす川幅うどん           | ⑬三富新田の「地割」       |
| ⑦秩父ミュージアムパークからの展望    |                  |



## 第75回全国植樹祭 基本計画 <概要版>

令和6年1月

第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会事務局  
(埼玉県農林部全国植樹祭推進課内)

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号  
電話番号：048-830-4306 ファクス番号：048-830-4771  
ホームページ：<https://www.pref.saitama.lg.jp/shokujusai/index.html>  
又は「第75回全国植樹祭」で検索してください

